

PATHO News

自治医科大学 **病理診断部** No.7 2010. 6. 15

<http://www.iichi.ac.jp/pathology/>

東京都内4施設の病理診断部門を視察

医療安全、環境改善をテーマに掲げ、また大学リニューアルも見据えて、日々業務改善に取り組んでいる病理診断部ですが、大学の創立記念日(5月14日)を利用して、有志11名が2グループに分かれて病理部門の視察に行っていました。

視察を受け入れて下さった施設は、東大病院、都立駒込病院、虎の門病院、国立がん研究センター中央病院です。

◎東大病院、都立駒込病院

(見学者：星野、柳田、二階堂、小瀬川、坂谷)



カウンター式の検体受付 (東大病院)

HIV(+)患者の剖検：年間10例 (都立駒込病院)

◎虎の門病院、国立がん研究センター中央病院

(見学者：飛田野、佐藤、本望、山本、田村、福嶋)



(虎ノ門病院)

(国立がん研究センター中央病院)

大人数での訪問にもかかわらず、各施設のスタッフの方々が、熱心に説明して下さいました。関係各位には厚く御礼申し上げます。

いずれの施設も清潔感のある職場で、「病理＝3K(汚い、臭い、暗い)」の感じはほとんどありませんでした。また各施設のさまざまな工夫も見聞することができました。

その一方で、自治医大病理診断部ならではの良い特色も再認識でき、大変有益でした。

6月10日に部内報告会を行い、この視察で得た情報をこれからの病理診断部の業務に生かしていくことを確認しました。



視察報告会

検体受付および剖検受付時間

8:30 ~ 17:15 (内線2257)

注) 土・日・祝祭日は剖検のみ受付 (内線2257 or PHS18218)

病理診断部の仕事の流れ ⑤ < 組織診 術中迅速診断編 >



今回は、病理組織診検査の中でも、特に優先的に行われる術中迅速組織診断(センチネルリンパ節、各種切除断端、etc)の流れについて、説明します。

手術中の限られた時間内に、凍結標本を作製します。病理診断を下すことにより、手術方法の選択等に貢献しています。

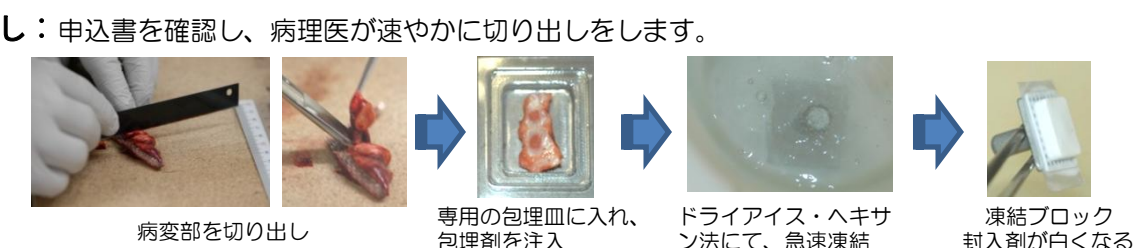
☆前日までに病理術中迅速診断の申込書を提出して下さい。
☆当日依頼する場合は電話後、速やかに提出して下さい。
★申込書には必要事項(感染症についても)を記入して下さい。

受付

↓
検体

大きな検体は手搬送で、それ以外は手術室ー病理診断部直通の気送管で、専用の袋に入れて病理に届きます。

↓
切り出し



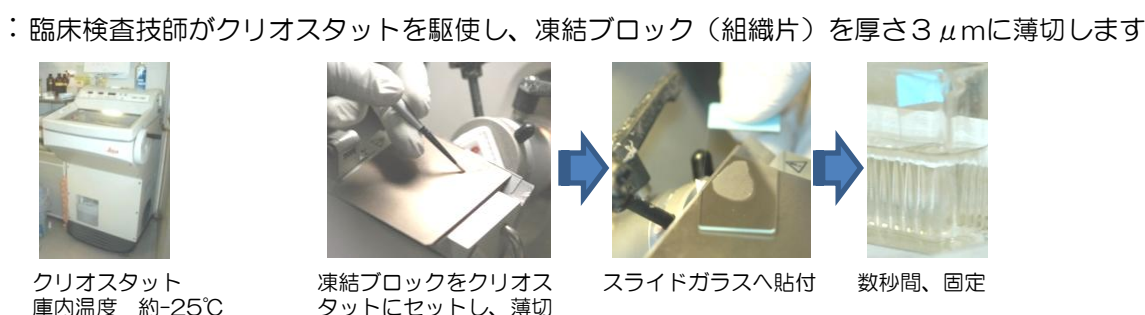
病変部を切り出し

専用の包埋皿に入れ、包埋剤を注入

ドライアイス・ヘキサン法にて、急速凍結

凍結ブロック封入剤が白くなる

↓
薄切



クリオスタット庫内温度 約-25℃

凍結ブロックをクリオスタットにセットし、薄切

スライドガラスへ貼付

数秒間、固定

↓
染色

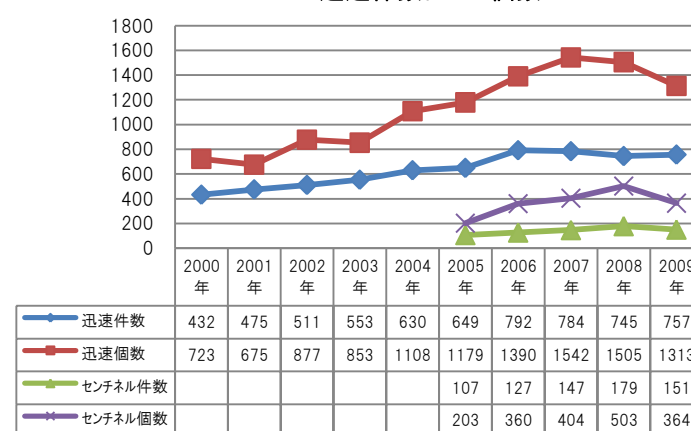
迅速HE染色

↓
病理医による鏡検、結果報告



通常、検体到着から15分前後で結果を報告しています。(特殊例を除く)

(件) 迅速件数および個数



ニュースレター PATHO News 病理診断部

No.7 2010. 6. 15

発行 : 福嶋敬宜(ふくしまのりよし)

編集 : TEAM だったった

飛田野清美(ひだのきよみ) 柳田美樹(やなぎたみき)
田村聖月(たむらみづき) 滝沢晴美(たきざわはるみ)